

活動レポート

道北技術士委員会

文責：道北技術士委員会幹事 佐藤 勉

平成 31 年度 年次大会及び研修会を開催

はじめに

道北技術士委員会では、定例の年次大会及び研修会を開催しました。年次大会では日本技術士会北海道本部副本部長(兼・道北技術士委員会代表幹事)の高桑 史郎 氏を含め 36 名の参加者となりました。以下に年次大会の概要を紹介します。

日時：2019 年(平成 31 年)4 月 20 日(土曜日)

14:00～19:30

場所：アートホテル旭川

1. 年次大会

高桑代表幹事の挨拶後に、議長に選出された同代表の進行により以下の報告が行われました。

第 1 号報告：平成 30 年度事業報告及び決算

第 2 号報告：平成 31 年度事業計画及び予算

平成 31 年度の事業計画では、2018 年(平成 30 年)に道北を中心に発生した集中豪雨による河川氾濫により甚大な被害をもたらしたことに触れ、このような災害時には各分野の技術者が総力を上げ、早期に復旧し人々の安全・安心を確保することが求められていることや、それらを実現するため、道北技術士委員会同士の連携を図りながら、公共の安全、環境保全、その他公益の確保を踏まえた活動を行うことが確認された。



写真-1 年次大会・研修会の集合写真

2. 研修会

演題 1：技術士を巡る最近の動向

講師：日本技術士会 北海道本部 副本部長

高桑 史郎 氏

概要：以下の 5 項目について説明を頂きました。

(1)平成 30 年度 技術士第一次試験結果

(2)平成 30 年度 技術士第二次試験結果

(3)日本技術士会北海道本部の会員数

(4)平成 30 年度統括本部(理事会等)からの話題

(5)日本技術士会北海道本部の主な動向



写真-2 講演する北海道本部副本部長 高桑 氏

演題 2：日本遺産「カムイと共に生きる上川アイヌ」

講師：上川町役場 産業経済商工観光グループ

主査 吉田 進 氏

概要：以下の 3 つのテーマの講演を頂きました。

(1)日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて、わが国の文化や伝統を語る「ストーリー」を、文化庁が認定するもので 2015 年(平成 27 年)に創設、ストーリーを語る上で欠かせない有形・無形の様々な文化財群を地域が総合的に活用し、国内へ発信することで地域の活性化を図ることを目指しています。

(2)認定ストーリーについて

「カムイと共に生きる上川アイヌ」の認定ストー

リーは、「美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ～神～を見出し共に生きてきた“上川アイヌ”彼らは激流進む奇岩の渓谷に魔神と英雄神の戦いの伝説を残し、上川アイヌの整地にコタンを形成し祈りを捧げ続ける。上川アイヌは「川は山へ遡る生き物」と考え最上流の大雪山を最も神々の国に近い、カムイミントラ～神々の遊ぶ庭～として崇拜してきた。このようなストーリーを石狩川から大雪山まで上川町を含めた12市町と連携をとってストーリーが認定されました。

(3) 魅力発信推進事業の取組について

①情報発信事業、②人材育成事業、③普及啓発事業、④調査研究事業、⑤公開活用のための整備に関わる事業など5つの取組行っています。ポータルサイトの構築、PRイベントへの出展やポスター作成、ブランド力を強化する映像製作などが進められ、人材育成事業では、日本遺産ガイドやストーリーの語り部の育成、さらにはシンポジウムの開催、モデルコースプロジェクト、日本遺産大使による魅力発信などこれからも上川地域のあらたな魅力のひとつとして「日本遺産ブランド」を活用し地域の活性化につながる取組を実施して行きます。



写真-3 講演する上川町役場 吉田 氏

能)がデータを自動的に分析し自らモデルをディープラーニングで取得する方法や、複雑な評価環境に対し、準最適解を短時間で発見する手法の遺伝的アルゴリズムがあり、新幹線700系のトンネル進入時の騒音を解消するために、遺伝的アルゴリズムによって良い遺伝子だけを残し準最適解を見出しN700系の先頭のデザインが話題となりました。

(2) AI(人口知能)導入について

ビジネス活用の主な目的は、「認識・分析」は画像や音声、自然言語を意味あるデータとして活用、また、新規のデータがどのカテゴリーに属するか判定したい。「予測・生成」は過去のデータから、次の新しいデータを生成したい。「最適化」は複雑で多くのパラメータの組合せのうち、最適なもの、またはそれに近いものを見つけたい、などがあり。いずれも基本的には大量のデータを統計分析しモデル化することが目的である。また、ビジネス活用の際には、AI(人口知能)は目的ではなく手段として導入する考えが必要で、自社で多くのデータは蓄積しているが、「何をどのように解析すると、どのような結果が取得できるか」の仮説を立てることが重要、多くのデータの蓄積だけではビジネス活用できません。



写真-4 講演するテクノフェイス社長 石田 氏

演題3：顧客の課題解決のためのAI(人口知能)開発事業

講師：株式会社テクノフェイス

代表取締役 博士 石田 崇 氏

概要：AI(人口知能)をビジネスに活用できるかについて講演を頂きました。

(1) 解析手法について

初めのAI(人口知能)はコンパイラによる漢字変換でしたが、現在ではデータを主体としAI(人口知

3. 意見交換会

研修会講師を含む29名が参加し活発な意見交換が行われました。また、AI開発事業講師の石田氏の周りには、意見交換や質問をされる方々で賑わっていました。

本誌の紙面をお借りし、本年次総会及び研修会にご協力頂いた講師の方々、及び参加者の方々へのお礼を申し上げ、ご報告を致します。